

4 死産と乳児死亡

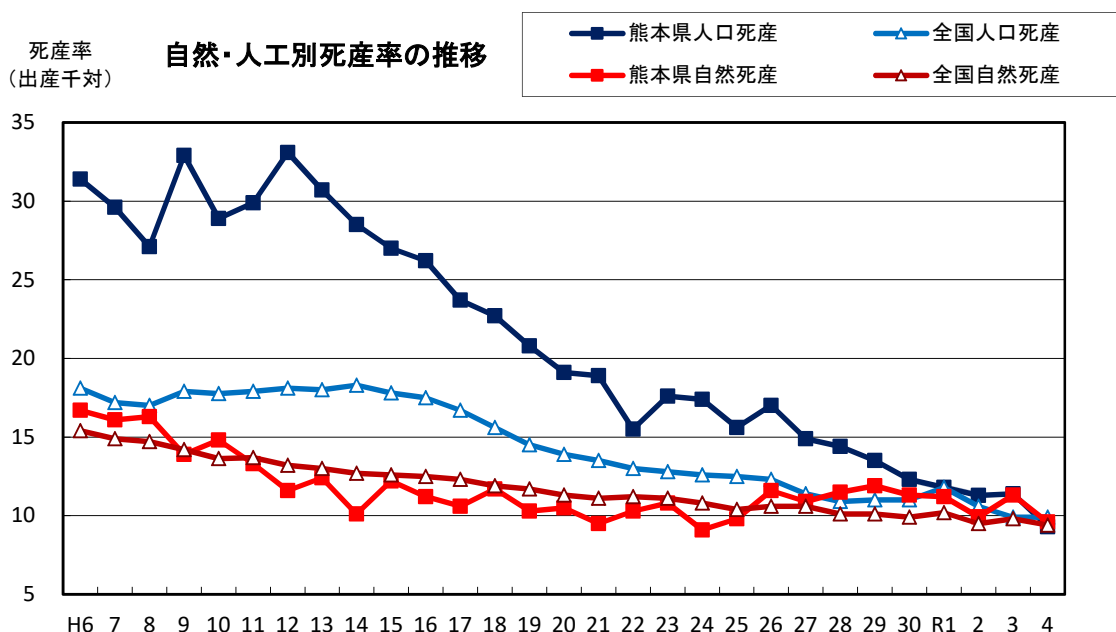
(1) 本県の死産率は、前年より3.9ポイント減少

令和4年の全国の死産率は19.3で、前年より0.4ポイント減少した。本県は18.8で、前年より3.9ポイント減少している。

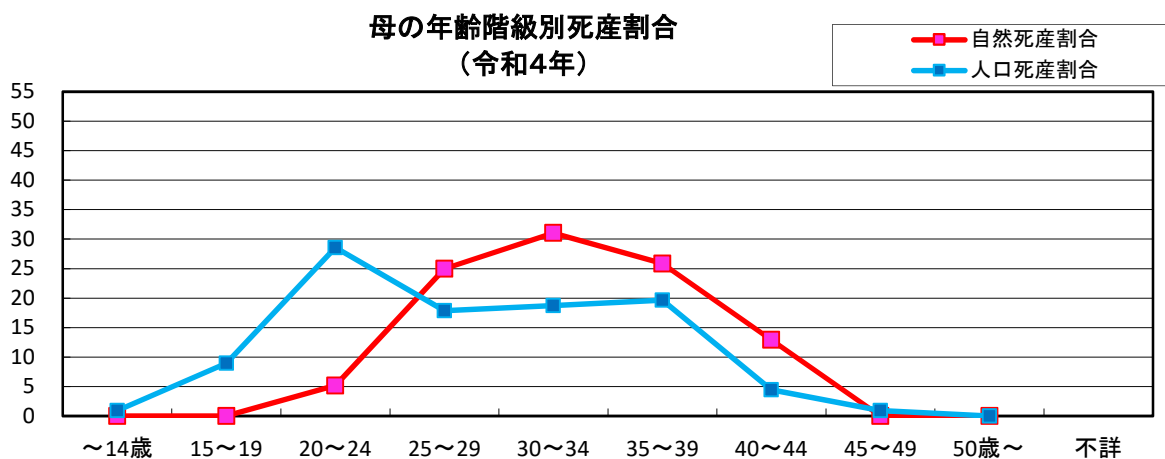
うち、自然死産率（出産千対）は、全国9.4で前年より0.4ポイント減。本県は9.6であり、前年より1.7ポイント減少した。

また、人工死産率（出産千対）は、全国9.9で前年と同ポイント。本県は9.3で、2.1ポイントの減少であった。

母の年齢階級別に死産割合をみると、自然死産では30歳～34歳、人工死産では20歳～24歳が最多となっている。



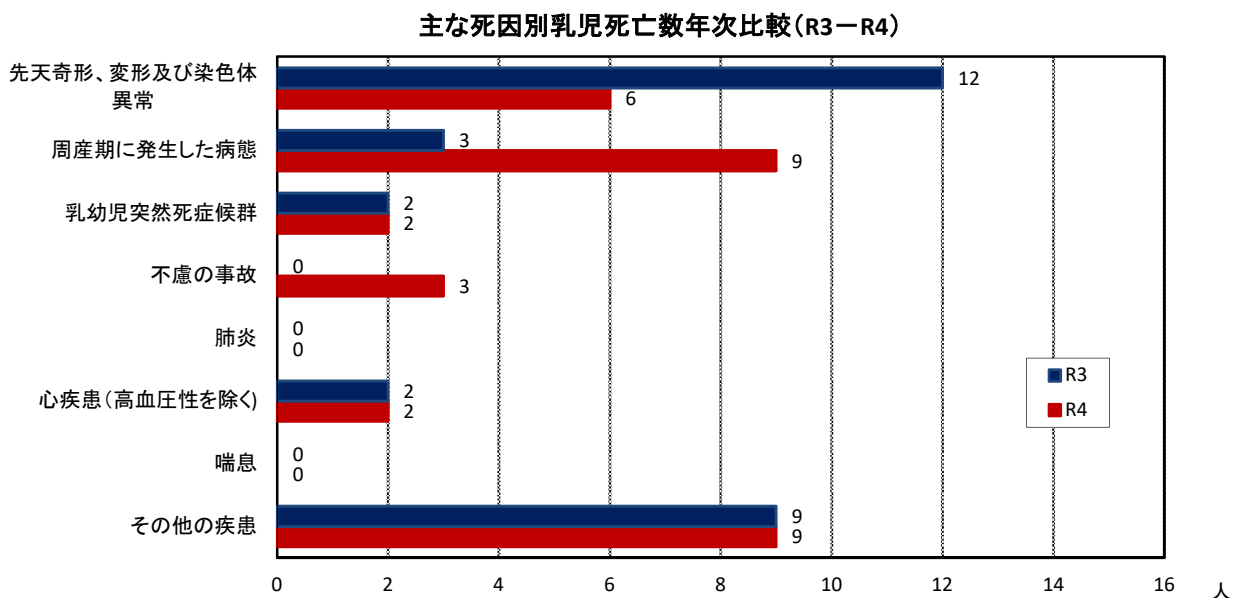
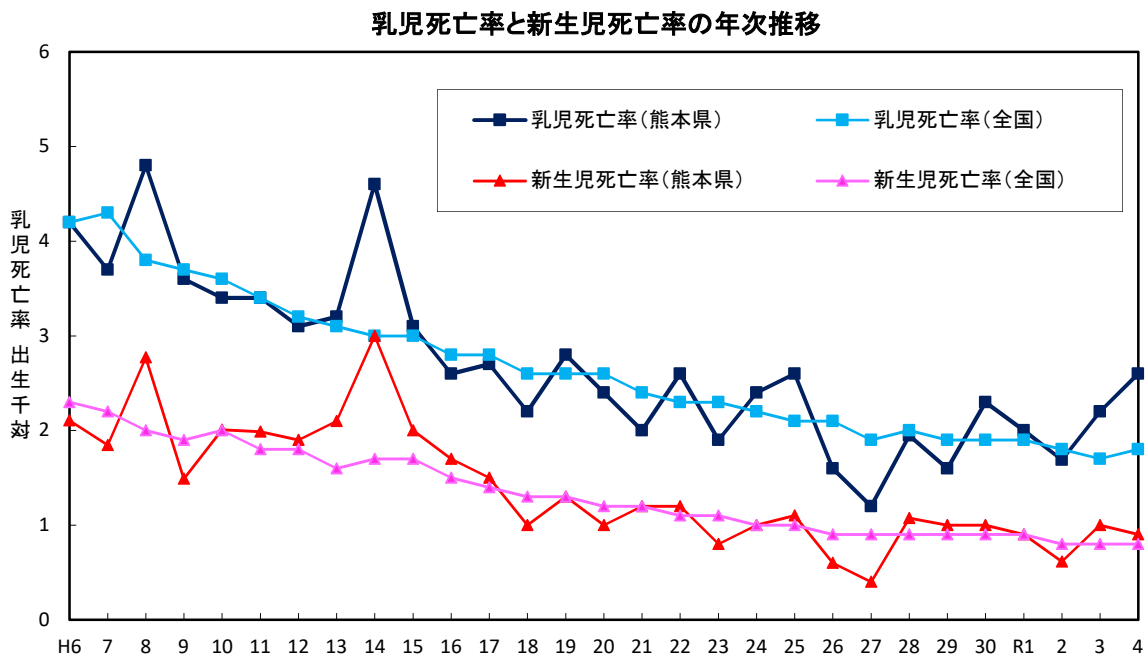
資料) 厚生労働省「人口動態統計」



(2) 本県の乳児死亡率は前年より0.4ポイント増加、新生児死亡率は0.1ポイント減少

令和4年の本県の乳児死亡数は31人、また、新生児死亡数は11人で、乳児死亡数は3人増加し、新生児死亡数は2人減少した。乳児死亡率は、全国は1.8で前年より0.1ポイント増加し、本県は2.6で前年から0.4ポイント増加した。また、新生児死亡率は、全国は0.8で前年から横ばい、本県は0.9で前年から0.1ポイント減少した。

本県の乳児死亡数を死因別にみると、「周産期に発生した病態」及び「その他の疾患」9人で最多であった。

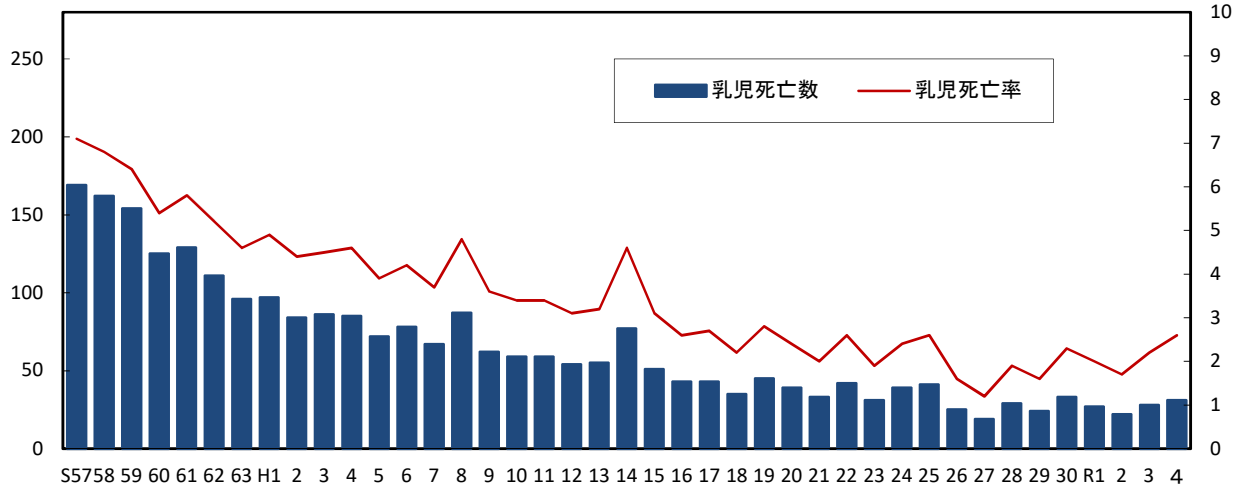


資料) 厚生労働省「人口動態統計」

死亡数
(人)

乳児死亡の年次推移(熊本県)

死亡率
(出生千対)

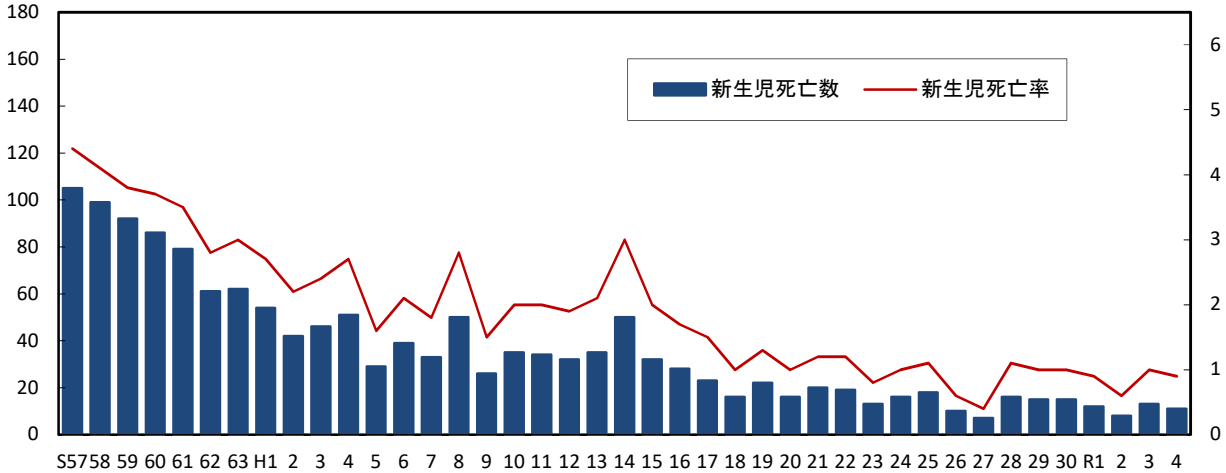


資料) 厚生労働省「人口動態統計」

死亡数
(人)

新生児死亡の年次推移(熊本県)

死亡率
(出生千対)

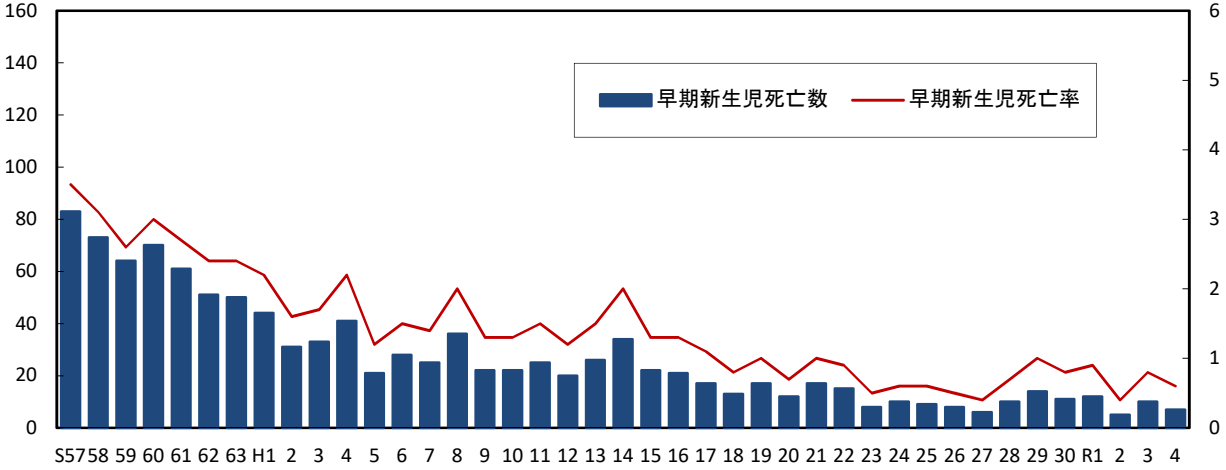


資料) 厚生労働省「人口動態統計」

死亡数
(人)

早期新生児死亡の年次推移(熊本県)

死亡率
(出生千対)

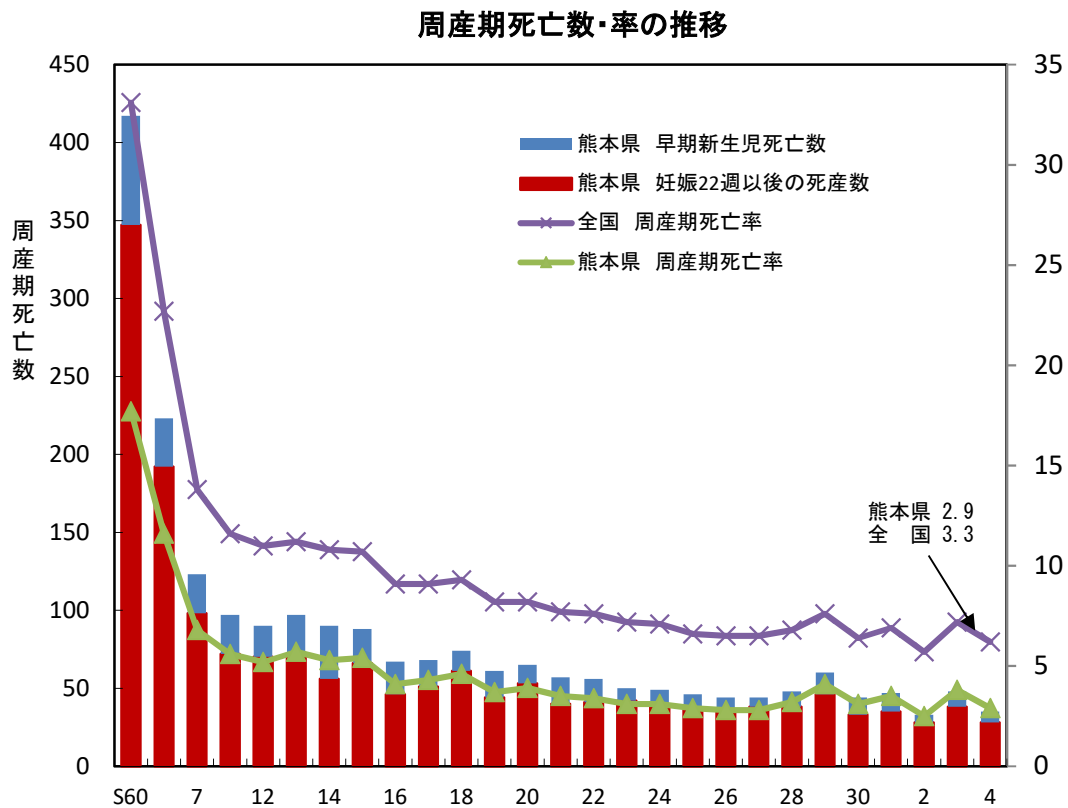


資料) 厚生労働省「人口動態統計」

(3) 周産期死亡率は、2.9で、前年より0.9ポイント減少

本県の令和4年の周産期死亡数は35人（妊娠満22週以後の死産数28人、早期新生児死亡数7人）であり、周産期死亡率は2.9で前年より0.9ポイント減少し、全国より0.4ポイント低い値であった。

出産前後の死亡は、母体の健康状態に強く影響されやすいことから、出生をめぐる死亡として周産期死亡を観察している。平成6年までは、「妊娠第28週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの」を周産期死亡とし、通常出生千対の率で算出していたが、平成7年からICD-10を適用したことに伴い、周産期死亡を「妊娠満22週以後の死産数に早期新生児死亡数を加えたもの」とし、周産期死亡率の算出の分母を「出生数+妊娠満22週以後の死産数」にすることとなった。



資料) 厚生労働省「人口動態統計」